

令和4年度 事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

I 全体事業概要

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が3年目となり、経済の影響が落ち着きつつあったが、ウクライナ情勢により世界的に資源のひっ迫が始まり、円安の影響も受け、原材料価格が高騰する事態となりました。本年の気象は、台風の影響のない年であったが、6月下旬からの高温を始め、気温の上げ下げが多く、気温が高めに推移し、長雨と晴天を繰り返す変化の多い年でした。

農地利用集積事業では、令和元年5月に「農地中間管理事業に関する法律」が改正され、引き続き農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業への移行事務を行ない、農地利用集積円滑化事業の保有面積は63haとなり、ピーク時である平成30年の277haに対し4/1以下となっています。新規の案件や円滑化事業による満期を迎えた農地等を中心に農地中間管理事業への移行を行いました。水田経営の厳しさが増し、地代変更や、借受者の高齢化等による返還案件が増えており、今後限られた担い手への集中を円滑に行うために、面的集積等、借受しやすい環境を整えることが課題となってきます。

農作業受委託事業では、農業機械更新できない小規模農家や、堆肥散布希望農家からの受託業務を継続しました。農地を賃貸借に移行する農家が増加していることで、受託面積は減少することが予想されますが、担い手からの委託もあり、担い手と連携して事業を進めていきます。

担い手育成研修事業では、トマト2名、いちご1名の研修生が就農し、農業次世代人材育成支援事業によるいちご専攻研修生を新たに3名受け入れました。特に毎週木曜日に行う公社研修では、農場での実践研修のほか、自立経営に向けた座学での講義や、JAの販売先である市場や販売店舗等への視察を行いました。また、研修生以外に、菌床しいたけでの就農希望者1名を令和5年の就農に向け、支援を行いました。

新たな担い手育成支援においては、新型コロナウイルス感染症が落ち着く中、担い手協議会の就農林相談会を始め、新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会、現地説明会等を開催しました。雇用環境が好転している影響で、相談者が減少しており、令和6年度希望者がいるものの、令和5年度に研修生となりうる候補者は、現状ではいません。引き続き募集活動を続けます。

産直出荷農家としての期待を担う農業塾は、9期生9名の塾生が9月に1年間の課程を修了し、9月から新たに第10期生10名を受入れ研修を実施しています。

農業インターンシップについては、農家と希望者の条件が合わず、実行できませんでした。

種苗等生産事業の自然薯むかご生産については、愛知県園芸振興基金から委託を受け、受託数量100,000粒を上回ることができました。

菌床ブロック生産事業では、生産農家からの需要に応じ、菌床ブロック製造を行っているが、農家の高齢化等に伴い減少しましたが、令和5年度は新規に2名が栽培を始めるため、大幅に増加する見込みです。ただし、原材料、電気料等の高騰により製造コストが大幅に上がっています。今後菌床利用者に対し、値上げ分の一部の負担をお願いしつつ、コスト削減に努めてまいります。

収益事業の自然薯栽培では鹿の被害があり数量が減少しました。菌床しいたけ栽培については、管理者が変わり慣れない中、12月の発生量が減少しましたが、昨年に次ぐ売り上げとなりました。なお、燃油高騰に対し、林野庁の燃油価格高騰対策支援金事業により補填を受けています。

II 事業内容

1. 農地利用集積円滑化事業

- ① 農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期等を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：ha

内 訳	地目	令和4年度保有面積	令和3年度保有面積
賃貸借	田	47.53	64.23
	畑	3.41	3.88
	その他	1.37	1.37
	小計	52.31	69.48
使用貸借	田	10.52	14.97
	畑	0.41	0.83
	その他	0	0
	小計	10.93	15.80
合 計		63.24	85.28

- ②所有者代理事業により売却希望相談に随時対応し、1件1筆の売買代理契約を行った。

面積単位：m²

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	1	1,439	1	1,439		
畑						
その他						
農地合計	1	1,439	5	1,439		

・豊島 水田（1筆） 1,439 m²
200,000 円（全体で）

2. 農地中間管理機構業務受託事業

- ① 新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等について、農地中間管理事業への移行を行った。特に本年度は富岡地区において、担い手対策の圃場整備による円滑化の10年契約満期の更新を行った。地権者の相続案件が増えており、遠隔地等の市外在住も増加傾向にある。

単位：ha

内 訳	地目	令和4年度末設定面積	令和3年度末までの設定面積
賃貸借	田	173.92	153.71
	畑	2.42	1.94
	小計	176.34	155.65
使用貸借	田	105.23	99.35
	畑	4.09	3.64
	小計	109.32	103.00
合 計		285.66	258.65

3. 地域農業者の支援に関する事業

(1) 農作業受委託事業

受委託事業については、前年並みとなったが、農地を賃貸借に移行する農家が増加し、担い手に集中している。また、稲採種刈り取り面積が減少傾向であるが、高齢化や大型農機具の老朽化による作業委託や、土作り気運の高まりによる水田への堆肥散布が増加した。

作業受託内容	R 4 年度実績	R 3 年度実績	公社	委託
耕起	3.3ha	2.5ha	○	○
代掻き	1.5ha	1.1ha	○	○
田植え	3.7ha	3.7ha	○	○
育苗	987 枚	980 枚		○
畝立て	0.7a	0.7a	○	
刈り取り	12.9ha	11.5ha	○	○
採種刈り取り	18.2ha	19.9ha	○	○
乾燥調整	1,771 俵	1,627 俵		○
堆肥散布	17.4ha	5.6ha	○	

(2) 担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、65組がオンラインを含め面談を実施した。雇用状況が良いため全体的に相談者が少なかった。

※ 参考データ

イベント名称	会場名	開催日	面談人数	備考
新農業人フェア	東京	R4. 7. 23	10	オンライン参加
	東京	R4. 10. 23	10	
	大阪	R4. 11. 26	4	
マイビ [®] 就農 FEST	名古屋	R4. 9. 19	5	
		R4. 12. 3	10	
就農林相談会	新城	R4. 10. 2	10	
新城市アグリチャレンジ	新城 岡崎 浜松	R4. 7. 3	4	
		R4. 8. 21	4	
		R4. 11. 27	1	
現地説明会（トマト・ホウレンソウ）	作手	R4. 10. 9	1	現地
現地説明会（イチゴ）	新城	R4. 11. 5	2	現地
		R4. 2. 11	4	現地
合 計			65	

- ② 農業次世代人材育成支援事業によるイチゴ就農専攻研修生を新たに3名受入れた。内訳は前年からの第9期生1名が6月に終了し、7月から国の産地パワーアップ事業を活用して就農した。第10期生を7月と9月に3名受け入れ研修中である。就農後の経営力を高めるための研修を増やしている。

- ③ 令和5年度の新規研修生見込者は、今のところないが、継続して就農者募集活動により確保に努める。

- ④ 農業塾では第9期生10名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対し

て農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和4年9月、1年間の農業実習を9名が修了した。同年9月からは、引き続き第10期生10名を受入れ、令和5年9月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。

- ⑤ 農業インターンシップについては、1名がイチゴで希望者があったが、繁忙期であったため、受入農家と調整つかなかった。

4. 農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

(1) 自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理は順調に実施され、受託数量100,000粒以上に対し114,980粒となり、目標数量を納品することができた。

(2) 自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、順調な生育で、予約本数4,293本を完納することができました。(一本芋規格30g~100g)

(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

生産農家からの需要に応じて162,033菌床の製造を行った。製造個数が農家の高齢化等に伴い、受注が減少しているが、新規に2名が栽培を開始する予定で、次年度は大幅に増加する見込みである。ただし、原材料、電気料、燃油高騰により製造コストが上がっている。

品目	R4 年度実績	R3 年度実績
(1) 愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	114,980 粒	137,970 粒
(2) 自然薯一本種芋受注栽培 (*30g~100g)	4,293 本	4,044 本
(3) 菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	162,033 菌床	164,370 菌床

5. 都市農村交流促進事業

(1) トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから昨年度と同様に近隣遊休農地を確保し作付け本数8,000本を継続した、今年度は、台風被害もなく、リピーターも多く、高糖度のスイートコーンとして知名度も上がり、体験は約800名(前年420名)となり過去最高の体験者となった。

(2) JAまつり

JAまつりの人気コーナー『しいたけ詰放題』を計画していたが、コロナウイルス感染症の拡大防止に伴いイベントが中止となった。

6. 農林産物生産事業

(1) 自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、生育途中で湿害と鹿に蔓を食害され、大きな減収となった。排水対策と電気牧柵を改造する必要がある。

総収穫量 190 k g (前年 311 k g)

(2) しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給種苗の検証栽培として夏出し 14,570 菌床、秋出し 22,641 菌床の栽培実証を行った。過去 2 番目の出荷量となった。

総出荷量 (パッケージセンター分のみ) 31,387 k g (前年 35,763 k g)

7. その他公社の目的達成に必要な事業

(1) イベント用ポップコーン種の栽培

面積 2 a

(2) 景観作物の栽培

菜の花栽培 15 a

(3) 作手小学校農業指導

小学生への稲作体験指導を行い、食べ物の生産過程を知るとともに感謝する食育を支援した。